日本建築学会大会学術講演梗概集
（近畿） 2023 年 9 月

日本統治期初期の台湾台中地方における製糖業と地域の開発

正会員　○辻原　万規彦*

台湾総督府文書　台湾百年歴史地図　台湾日日新報
帝国製糖　改良糖廓　軽便鉄道

１．はじめに

筆者らはこれまで，台湾の大規模河川の流域をまとまった一つの領域と捉え[1)]，日本統治期の主力産業であった製糖業によって，これらの領域が如何に変容したかについて検討してきた[2)]。本稿では，明治 30 年代から大正中期における台湾中部の台中地方を一つの領域と捉え，製糖業と地域の開発の関係を検討することを目的とした。

おおよそ大甲溪，大肚溪（烏溪），大肚台地，台中台地で囲われた台中盆地に加え，北側の后里台地と大肚溪南岸の一部も対象とした。南側の大肚溪，大甲溪，北側の大安溪は流域面積が台湾で３位，７位，10 位の大規模河川である。清朝期から甘蔗栽培が盛んであった台南地方とは違い，日本統治期初期には米作が優越していた。中心都市の台中市の都市や街区の形成発展過程に関する研究[3)]はあるが，領域全体を視野に入れた研究はほとんどない。

国史館台湾文献館文献檔案査詢系統で閲覧した台湾総督府文書，中央研究院地理資訊科学研究専題中心が運営する「台湾百年歴史地図」収録の地図，台湾日日新報の記事，糖業協会所蔵の糖務年報，国立台湾図書館日治時期図書影像系統で閲覧した日本統治期の文献などを用いた。2010 年 9 月から 2018 年 9 月の間に現地調査も行った。

２．製糖業による地域開発の始まりと霧峰林家の関与（明治 30 年代後半～明治 43 年頃，図１と図２）

明治 30 年代の台湾総督府による糖業奨励政策を受けて，甘蔗作が盛んな台南地方に多数の製糖工場が設立された。遅れて台中地方でも，米作が優越する平野部ではなく，台地の頂部や裾部に原料採取区域が設定されて在地の台湾人資本と日本人資本による改良糖廓で製糖が始まった[4)]。松岡富雄は新渡戸稲造在籍時の札幌農学校で教育を受け，新渡戸が局長を務める臨時台湾糖務局の嘱託として渡台した。甘蔗苗の養成に従事した後，松岡製糖場を創業した。一方，台湾盆地では台湾五大家族の一つで広大な土地を所有する霧峰林家の関係者が改良糖廓を設立した。

３．新式製糖工場の操業と手押し台車軌道網の整備（大正６年頃まで，図２と図３）

明治 43（1910）年 10 月に松岡や霧峰林家による改良糖廓が合併し，糖商などの内地の日本人資本の後ろ盾を得て帝國製糖が設立された。台中駅に近接して建設された新式製糖工場で明治 44 年 12 月に製糖を開始した。一方，后里台地の西側で小松楠彌が原料採取区域設定の許可を得た後，小松が社長を務める北港製糖による新式製糖工場で明治 45 年 2 月に製糖を開始し，東側で川瀬による改良糖廓が建設された。北港製糖は後に東洋製糖に合併された。この後，大正６年頃まで新式製糖工場と改良糖廓の新設や製糖能力増加が認められなかった。台中地方でも原料採取区域の拡大範囲は大きくなく，製糖業による地域の開発は停滞気味であったといえよう。一方，在地の小規模な日本人資本と台湾人資本によって台中を中心に手押し台車軌道（トロッコ）網の整備が進んだ。当初は米の輸送が主な目的であった手押し台車軌道は他の物資や人の行き来も促し，地域の開発に貢献したといえよう。

４．新たな製糖工場の設立と台湾総督府鉄道海岸線の一部開通（大正９年頃まで，図３と図４）

製糖工場の能力制限が撤廃された大正６年以降に台中地方では改良糖廓の設立が相次いだ。これらの原料採取区域は大正末期には内地の日本人資本による製糖会社に合併された。大正 9 年 12 月に台湾総督府鉄道海岸線の一部が開通し，在地の台湾人資本による製糖業と手押し台車軌道から日本人資本の製糖業と官営鉄道による地域の開発へ移行した。台中地方のほぼ全域が原料採取区域に組み入れられ，大正 11 年にさらに２箇所の新式製糖工場が創業して日本統治期の地域の開発の枠組みがで完成した。

５．おわりに

甘蔗作優越の台南地方では日本統治期初期に，清朝期以来の台湾人資本から内地の大規模な日本人資本による地域の開発へと移行した。一方，米作優越の台中地方では内地の日本人資本だけではなく，在地の台湾人資本に加えて在地の小規模な日本人資本による製糖業と鉄道・軌道網の整備が地域の開発に与えた影響も大きかった。

謝辞　本稿は JSPS 科研費 JP21K04456，JP17K06754，JP26420647，JP23560769，JP20760430 ならびに JP15H04109，2013 年度台湾奨助金の助成を受けた。資料の閲覧では，中央研究院地理資訊科學研究專題中心の廖泫銘 研究副技師，公益社団法人糖業協会，熊本県立大学図書館にお世話になった。謝意を表す。

注

1）平成 27～31 年度科学研究費補助金（基盤研究（B），課題番号 15H04109）「台湾都市史の再構築のための基盤的研究：都市の移植・土着化・産業化の視座から」（研究代表者・青井哲人（明治大学教授））による。

2）辻原・青井ほか：原料採取区域の変遷からみた日本統治期初期の台湾濁水溪流域における地域開発の進行，建築学会論文集，792 号，pp. 464-475，2022。辻原・今村：明治期台湾における糖業政策が地域の再編成に与えた影響，同，797 号，pp. 1395-1406，2022。辻原・今村：製糖業からみた明治期台湾における地域の開発主体の変容，同，806 号，pp. 1517-1528，2023 など。

3）例えば，陳・池田：日本統治期における台中都市計画の特徴と整備過程に関する研究，建築学会論文集，550 号，pp. 209-215，2001。木村・伊藤・栢木・村田：日本統治期における台湾公設市場の空間構成と街区形成過程に関する復原的研究，都市計画論集，Vol. 46，No. 3，pp. 721-726，2011 など。

4）原料採取区域内で収穫された甘蔗は特定の製糖工場にのみ搬入が可能であった。全ての工程で機械を用いる新式製糖工場では分蜜糖が製造されるが，圧搾工程のみに機械を用いる改良糖廓では含蜜糖が製造される。

Relationship of Sugar Refinery Industry and Area Development in the Taichung Region in Taiwan between the 1900s and 1910s

TSUJIHARA Makihiko

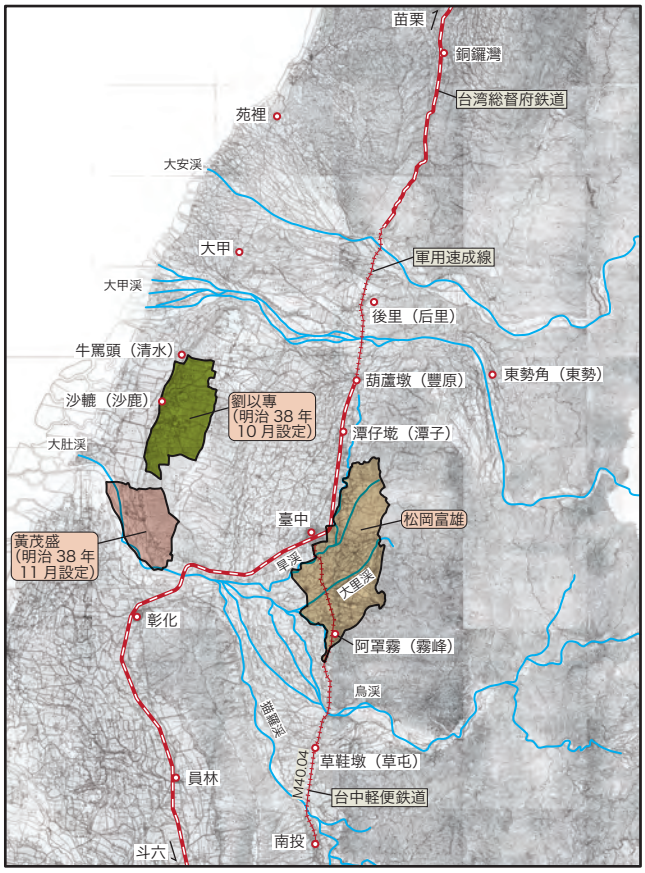

図 1　明治 40 年 7 月の原料採取区域と軌道網

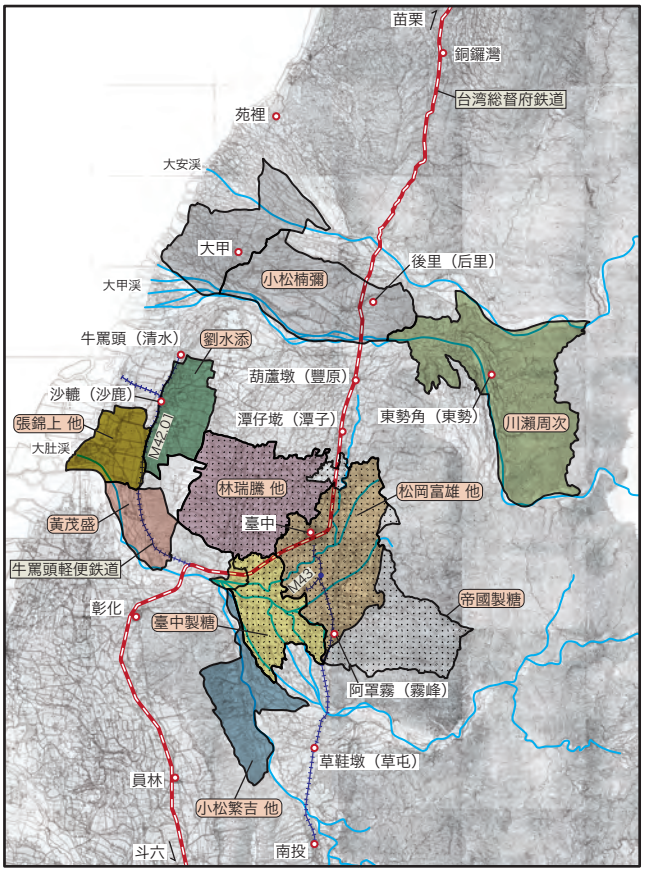

図 2　明治 43 年 8 月の原料採取区域と軌道網

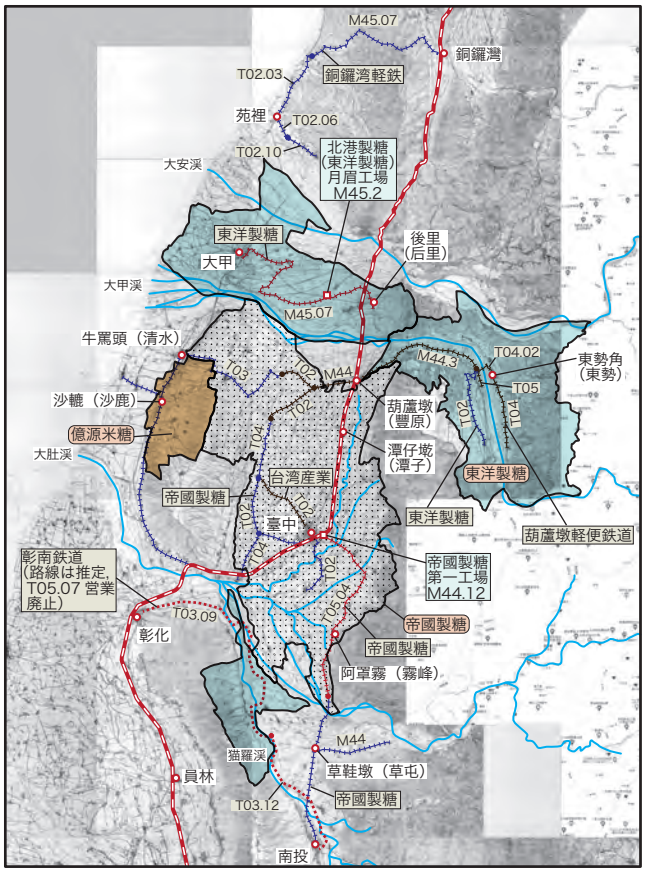

図 3　大正 6 年 5 月の原料採取区域と軌道網

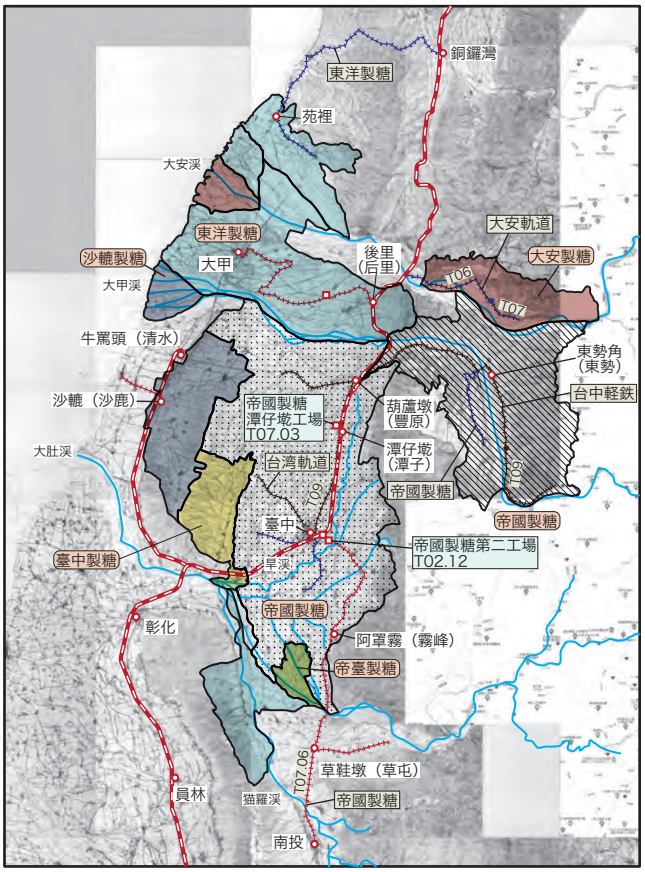

図 4　大正 9 年 12 月の原料採取区域と軌道網

* 熊本県立大学環境共生学部居住環境学専攻　教授・博士（工学）　　* Prof., Prefectural University of Kumamoto, Dr. Eng.